

AMAKURU RWANDA

青年海外協力隊 2017 年度 4 次隊

ルワンダ・コミュニティ開発(水の防衛隊)



野田 恵莉



Muraho! (こんにちは!)
東アフリカ、ルワンダから
ニュースレターをお届けします。

TODAY'S TOPIC

- わたしの活動
「Jerrycan Wash Campaign 開始！」
- 任地の暮らし
「アフリカ布ギテングでつくる、テイラーメイド服」



Jerrycan Wash Campaign 開始!

今年6月より“Jerrycan Wash Campaign*”をセクター、ヘルスセンター、コミュニティヘルスワーカー(CHW)、村長とともに始めました。住民に広く周知するために、村の中心や公共施設にポスターを貼っています。(左下) 重度の汚れ洗浄に使える重曹の入手については、ヘルスセンター職員協力のもと、CHWを通じて住民が少量から安く購入できる仕組みを作りました。

第一弾は、月1回行われる村の栄養改善クッキングの場でジェリカン洗浄ワークショップを行いました。8月までに7村で8回、のべ180名の村人が参加し、ジェリカンの洗浄方法を学びました。また、モデル村のリーダーが隣の村へノウハウを教える動きがあり、広がりを見せています。「いつジェリカンを洗った?」という質問に対して、にやりと笑っている住民。少しずつ行動に変化が現れますように!

さらに、思いがけない副産物も。セクターの社会福祉担当やヘルスセンターの同僚が他のセクターや郡庁に任地の取り組みを紹介し、広げていこうと呼び掛けてくれたのです。彼らが活動の必要性を感じたからこそ、このように行動してくれたことが大変うれしかったです。

*Jerrycan : 水を運んだり、保管するための20Lのポリ容器のこと。



アフリカ布ギテンゲでつくる、テイラーメイド服

色鮮やかな布をまとうルワンダ人。ルワンダでは、服地のことを「ギテンゲ(igitenge)」と呼び、ドレスやシャツ、巻きスカートなどに使われています。自国で生産している布は少なく、隣国のコンゴ共和国、エチオピアなどからさまざまなプリントの布が輸入されているそう。ギテンゲのほかにも、タンザニアに近い私の任地では「カンガ」と呼ばれるスワヒリ語のことわざなどが書かれた布、「バティック」というろうけつ染めの布も見かけます。

任地のメイン通りには、服を仕立てる小さなアトリエが立ち並び、多くのテイラー(衣服を仕立てる人)が働いています。ここで使っているミシンは、カタカタと音を立てるアンティークな中国製の足踏みミシン。店内には色とりどりの布が飾られ、どの布で何をつくろうか迷ってしまうほど。好みの布を選び、デザインを伝え、お気に入りのテイラーを見つけたらサイズ測定。待つこと約1日～2週間でオーダーメイドの服が出来上がります。布はズボンやスカートを1枚作るのに十分な大きさ(1ピース)で300～500円、縫製代は250円程度です。

私の住む村一番のおしゃれさんは、ギテンゲを普段着としてクールに着こなす彼でしょう。(写真右)彼の服もこの村のテイラーが作っています。

次回もお楽しみに。Murabeho～!(またね!)

